

特定非営利活動法人 きずなメール・プロジェクト 2019年度 事業報告

2019年度 活動実績



特定非営利活動法人
きずなメール・プロジェクト

トラックレコード 2020年度3月末日時点

累計登録者数

18万8621人
(前年比27.2%増)

アクティブユーザー (配信中)

4万5482人
(前年比25.2%増)

事業採用自治体数

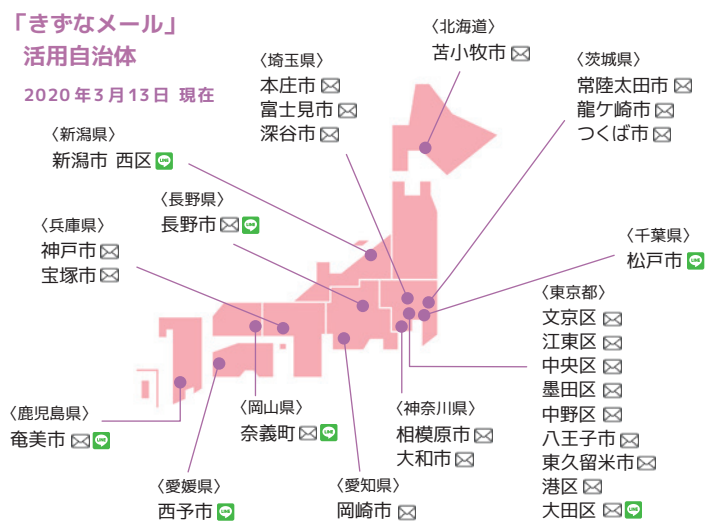
30自治体

01 新潟市西区でLINE 配信スタート! 長野市、奈義町もLINE 配信に!

自治体での「きずなメール事業」は2019年、新たに新潟市西区にてLINE配信が始まりました。活用中自治体の長野市、岡山県奈義町ではメールからLINE配信との併用もしくは移行、東京都大田区(LINE配信)では6歳誕生日+就学応援メッセージ拡充がありました。時代の流れもあってLINEでの配信が増えています。一方、事業終了が3自治体ありました。これを学びの機会として次に活かしていきます。

「きずなメール」 活用自治体

2020年3月13日 現在



02 団体WEBサイトをリニューアル

2回目のリニューアルです。前は2014年でしたので、約5年ぶりです。今回は、このサイトを「きずなメールの提案メンバーのひとり」と位置づけ、温かみと分かりやすさを意識。また、ステークホルダーの方々にも多数登場していただきました。

Before



03 法人寄付をいただきました

NPO法人として、寄付募集に少しずつ注力した年でした。

精米機を製造されていて、無洗米や金芽米も有名な「東洋ライス株式会社」様より法人寄付を頂きました。

同社は日本の企業として初めて、SDGsに関する取り組みを国連で発表されました。



東洋ライス株式会社本社訪問時。
右から二人目が雑賀慶二社長。

これから子どもを生み育てる妊産婦さんや子育て支援に強い関心を持たれており、団体もSDGsに取り組んでいることからご縁が繋がりました。そして、団体のvision、missionに大きく共感していただき、支援を頂きました。「きずなメール」を通して社会に還元していきます。

■2019年度の動き

5月



江東こどもまつり

6月



第4回きずなメール活用自治体情報交換会

7月



「子育てきずなメール」運用報告会

8月



初めての研修合宿

11月



公開勉強会「児童虐待予防の課題と可能性」

1月



「子育てきずなメール」原稿の多職種連携。歯科医が監修チームに

3月



活動報告会 開催

丸紅株式会社がインドネシアで展開する電子母子手帳アプリに、「マタニティきずなメール(インドネシア語版)」原稿の提供開始

決算情報

事業収入の大きな柱は、今期も自治体でのきずなメール配信事業です。補助金や助成金に頼る割合を少なくし、職員の雇用を確保しながら継続的かつ組織的に社会課題に取り組んでいます。

メディア掲載

- 2019年 5月 J-WAVE「JK RADIO TOKYO UNITED」取り組み紹介
2019年 6月 日本経済新聞（北関東・信越）「新潟市西区、LINEで子育て情報」
2019年10月 「自治医大卒業生 女性医師支援 NEWS vol.54」にて紹介
2019年10月 新潟市西区「にしっこはぐくみLINK」紹介動画
2019年11月 日本経済新聞「長野市、子育て情報をLINEで発信、情報発信を強化」
2020年 1月 ニッポン放送「阿部亮の世界一周!」代表大島がゲスト出演

スタッフ紹介



育休からの復帰 自治体事業部

2019 年春、育児休業を経て職場復帰をしました。同時に親の介護も重なり「ダブルケア」の担い手となりました。保育施設や介護施設、また団体や、私の親族や夫の家族などの手助けを受け「ひとりでこの事態に

対処しなくてはいけないわけではない。自分以外にも問題解決と一緒にしてくれる人がいる。」という環境に身を置くことができたことで、困難な状況の中で様々な葛藤がありながらも、自分

で自分を肯定しながら奮闘する日々でした。

改めて、育児と介護という「ケアワーク」を考えたとき、家

井上 綾子

族だけの問題にせず社会全体で担っていくためには、担い手の周りの人のなかに当事者意識をもって一緒に取り組んでくれる人の存在があるかないかは、とても重要だと思いました。複数の人の視点が入ることで意見の違いが生まれることもありますが、知恵を出し合い相談できる環境が身近にあることは、心のバランスを保つ上でとても重要でした。子育てで考えると、例えば両親のどちらかの自己犠牲の上に成り立つ子育てではなく、母親や父親など養育者自身が幸せで健やかな状態を目指した延長線上に子育てがある、ということが子どもにとっても最善の利益であると思います。その夫婦がゆるやかにつながるきっかけとして「きずなメール」を読んでもらえたら最高だと思います。

新入社 自治体事業部 谷 摩耶

2019 年 4 月に入りました谷です。読者からの問い合わせ対応を担当しています。私自身の第一子の産後は体調を崩し、今思い出しても辛い日々でした。少し余裕ができた今は、仕事と子育てのバランスを模索する日々ですが、子育てに奮闘している方たちとこれからの未来のために前向きに働いていきたいと思っています。

社会における新しい価値を創り、受け渡して行きます。



代表理事

大島 由起雄

10 年目になりました。昨年ここに、この数年の変化は「育てられるものから、育てるものへ」の変化ではないかと書きましたが、そのただ中にあることを実感しています。課題は発見され、仕事は創られる。この歴史の法則を見失うことなく、これまでの応援して下さった人々との積み重ねの上に、「きずなメール」が体現する価値をさらに進化させていきます。



コンテンツ開発

松本 やかり

9 期を無事に終えることができました。あらためて、きずなメール・プロジェクトを支えてくださっている皆さまに感謝申し上げます。

届け方・つながり方としてメールで始まったきずなメール事業も、今期は自治体による新規導入と配信方法拡充はすべてLINEであり、自治体と市民のコミュニケーションツールも確実に変わってきています。

一方、登録者をみてみると、今期も登録者の多くが「母親」でした。「孤育て予防」「乳幼児

虐待予防」というミッションを考えれば、また、これまでの読者調査結果からみれば、父親への登録促進、父親が登録しやすい「きずなメール」になることが、今後、団体として向き合っていく課題のひとつです。さらには「母親」「父親」といった属性にとらわれずに、だれもが子どもの育ちに関わる社会を目指し、いまある課題に向き合っていきたいと思っています。

10 期以降も多くの方々と力を合わせ、進んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



特定非営利活動法人

きずなメール・プロジェクト

〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北5-1-5-301
Tel 03-6317-5575 Fax 03-6322-3673
ホームページ www.kizunamail.com

きずなメール・プロジェクトは、持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



目標5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う



目標8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

